




| 国語科単元デザイン   |  |  |   |
|---|--|--|---|
| 単元名   |  | 日 時  | 11月21日4限  |
| 「大切にしたい言葉」(光村図書)<br>卒業～自分の思いを文章に残そう～  |  | 学年組  | 6年3組【教室】  |
|   |  | 授業者  | 小坂 彩芽   |
| 1 単元の目標と評価規準  |  |  |   |
| 知識及び技能  | 思考力・判断力・表現力等   | 学びに向かう力・人間性等   |   |
| 思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語句を豊かにすることができる。【(1)オ】   | 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しくしたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。【B(1)ウ】       | 言葉が持つよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。  |   |
| 知識・技能   | 思考・判断・表現   | 主体的に学習に取り組む態度  |   |
| 思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語句を豊かにしている。【(1)オ】   | 「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しくしたりするとともに事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。【B(1)ウ】 | 自分の考えが伝わるように書き表し方を粘り強く吟味し、見通しをもって「大切にしたい言葉」の文章を書こうとしている。   |   |
| 2 単元における「パフォーマンス課題」と「期待する子どもの姿」   |  |  |   |
| 【パフォーマンス課題】<br>卒業文集に掲載する文章として、自分が大切にしたい言葉を一つ選び、その言葉にまつわる自分の体験やそれを通して考えたことをまとめて書く。   |  |  | 成果物モデル<br> |
| 【期待する子どもの姿】<br>・自分が大切にしたい言葉を選び、これまでの小学校生活での経験を重ね、その中で心に残った「言葉」にどんな意味があるのかを関連付けて書く姿。<br>・既習をいかして自分の思いを伝えるのにふさわしい言葉を選んだり、文章の調子などの点から表現を工夫したりして書く姿。                      |  |  |   |
| 3 指導にあたって   |  |  |   |
| (1) 既習の内容   |  | (3) 指導の工夫  |   |
| 〈3年「たから島のぼうけん」〉<br>〈4年「心が動いたことを言葉に」〉<br>〈5年「あなたは、どう考える」〉<br>・書いた文章を見直し、目的に応じて、たとえを使ったり、言葉の順序を入れかえたりして、表現を工夫する。<br>〈5年「日常を十七音で」〉<br>・様々な表現を試して自分の思いを伝えるのにぴったりな表現を工夫する。 |  | 【言葉による見方・考え方】<br>□一斉指導の場面では、教師のモデル文や児童の成果物を提示し、改善点や良い点を考えることを通して見方・考え方を獲得できるようにする。<br>□個別最適な学び、協働的な学びにおいて、板書や掲示物を見返すことで、児童が見方・考え方を意識して学びを進めることができるようにする。<br>□6年間で学習した表現の工夫や言葉の宝箱をリスト化し、端末に入れておくことで必要な時に使えるようにする。 |   |
| (2) 児童の実態   |  | 【対話の活性化】   |   |
| ○調べたことを「はじめ・中・終わり」の段落構成を意識して、文章にまとめることができる。<br>○「中」を書く際に、理由と自分の経験を踏まえて書くことができる。   |  | □一斉指導の場面では、教師のモデル文や児童の成果物を提示し、学級全体で思考する場面を設定することで、対話を通して見方・考え方を共有できるようにする。<br>□一斉指導で思考の軸をそろえる場面を設定することで、対話の目的や視点を明確にする。  |   |

|  |   |
|--|---|
| <p>○考えを表す言葉を使って文章を書くことができる。</p> <p>△事実と感想、意見とを区別して書くことができない児童もいる。</p> <p>△自分の思いや考えが伝わるように内容を表現したり、読み手に伝わるように構成を考えたりすることには、まだ課題が見られる。</p> | <p>□学習進度、文章等を学習状況シートを用いて一覧で可視化（他者参照）し、個の状況や目的に応じて必要感のある場面で対話ができるようにする。</p> <p>【教師の見取り】</p> <p>□各学習過程において、よりよいものを取り上げて全体に広げたり、課題と思われることを全体で取り上げて検討したりする。</p> <p>□机間指導やクラウドを用いた見取りから、学習が進んでいない児童を支援したり、児童同士をつなげたりする働きかけを行う。</p> |
|--|---|

#### 4 単元の指導と評価の計画（全 7 時間）

| 時間  | 学習課題（◆）と主な学習活動（○）  | 評価の観点【】評価規準（・）  |
|---|--|-----------------|
| 1   | <p>◆題材設定</p> <p>○自分が大切にしたい言葉を調べたり、選んだりする。</p> <p>○言葉と関連する経験を思い出し、書き出す。</p> <p>○単元のゴールを確認し、学習計画を立てる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">卒業 ～自分の思いを文章に残そう～</div> <p>○自分が選んだ言葉と関連する経験を思い出し、そのときのことを詳しく書き出す。</p>  | ・（情活）【思・判・表】BI③ |
| <p>Point! </p> <p>・「知ってほしい、この名言」での学習を振り返り、言葉と自分の経験を合わせることを確認する。</p> <p>・卒業文集に掲載する文章を書くという学習のゴールを共有し、学習の見通しを持てるようにする。</p> <p>・「書くこと」の学習過程を示し、何をどのような順序で行うか話し合い、児童と学習計画を作る。</p> <p>➤20歳になった自分たちが読み返すという視点で、自分の小学校生活が思い起こせるように、経験を詳しく書く。</p>                |  |                 |
| 2<br>3  | <p>◆内容の検討・構成の検討</p> <p>○モデル文を用いて文章を構成する要素を捉える。</p> <p>「自分が選んだ言葉」「20歳の自分に向けて」</p> <p>「理由」「言葉と関連する経験」</p> <p>「今後の生活に生かしたこと」</p> <p>○構成メモには、</p> <p>【初め】①自分が選んだ言葉 ②理由</p> <p>【中】 ③言葉と関連する経験</p> <p>【終わり】④今後の生活に生かしたいこと</p> <p>⑤20歳の自分に向けて</p> <p>の内容を入れること条件として確認する。</p> <p>○自分の文章の構成を考え、構成メモに書く。</p> | ・（情活）【思・判・表】BI③ |
| <p>Point! </p> <p>➤卒業文集の中で「自分が伝えたいこと・伝えたい思い」をはっきりさせる。</p> <p>・内容のまとまりごとに段落を作ることを確認する。</p> <p>・選んだ言葉と自分の経験が関連しているかを確認する。</p> <p>➤教師のモデルから文章の構成を考えたり、自分にとっての意味などをはっきりさせて、伝えるものの優先順位をつけたりする。</p> <p>・「題材設定」「構成」「記述」を、ドキュメントのタブで分け自分の学びの過程を一覧できるようにしておく。</p> |  |                 |

|                            |   |   |
|----------------------------|---|---|
| <p>4</p> <p>⑤</p> <p>6</p> | <p>◆記述・推敲</p> <p>○構成メモをもとに、「大切にしたい言葉」の文章を書く。</p> <p>○友達の記事を見たり、表現の工夫を確認したりし、自分の文章の書き表し方を見直し、工夫する。</p> <p>○自分や友達の文章を見直す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>④これまでに学習した表現・書き方の工夫を確認する。<br/>構成メモをもとに、経験や思いなどを詳しく書く。</p> <p>⑤自分の思いがより伝わるように書き方や表現を工夫する。</p> <p>⑥推敲チェックリストを用いて、文章を見直す。</p> </div> | <p>(情活)【思・判・表】BI③</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【知識・技能】スライド</p> <p>思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語句を豊かにしている。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【思考・判断・表現】スライド・発言</p> <p>「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しくしたりするとともに事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p><u>行動観察</u></p> <p>自分の考えが伝わるように書き表し方を粘り強く吟味し、見通しをもって大切にしたい言葉の文章を書こうとしている。</p> </div> |
| <p>Point!</p>              | <p>▶自分の思いがより伝わるようにという目的意識を再確認し、教師のモデル文や児童の成果物で考える場を作ることで思考の見通しを持たせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「記述」の前半は、「文章構成」「言葉と経験の関連」等に、後半は「書き表し方の工夫」に重点を置いて児童の学習状況を見取りながら、必要な指導を行う。</li> <li>・書き表し方を工夫する際には、学習ポータルサイトから「表現の工夫リスト」「言葉の宝箱」「言葉の宝箱plus」などを用いるよう促す。</li> <li>・推敲する際には、チェックリストを用いて、視点に沿って相互評価を行えるようにする。</li> </ul>      |   |
| <p>Point!</p>              | <p>7</p> <p>◆共有</p> <p>○文章を読み合い、感想を伝え合う。</p> <p>○自分の文章のよさを確かめ、学習の振り返りをする。</p>   |   |
|                            | <p>▶書く活動でポイントとした「事実や経験を分かりやすく書く」「思いが的確に伝わるように工夫する」ができたかを振り返る。</p> <p>・書き進める中での自分の変容や自分の文章のよさに触れた振り返りを取り上げることで、自分の思いを言葉で伝えることの意義や楽しさを実感できるようにする。</p>   |   |

| 5. 本時の学習   |   |  |
|--|---|--|
| (1)ねらい<br>・目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しくしたりするとともに事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。 【思考力・判断力・表現力等 B(1)ウ】 |   |  |
| (2)評価規準<br>・目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しくしたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。 【思考力・判断力・表現力等 B(1)ウ】   |   |  |
| (3)準備<br>・クロムブック ・学習状況シート ・表現の工夫リスト ・言葉の宝箱 ・言葉の宝箱 plus   |   |  |
| (4) 展開   |   |  |
| 過程   | 主な学習活動<br>○発問 ・児童の主な意識の流れ   | ・留意点★支援 ICT 活用の目的<br>評価【観点：方法】   |
| つかむ5分  | 1. 前時までの課題を振り返る。<br>○どんなことに気をつけて文章を書きましたか。<br>・主語と述語のつながりに気をつけて書いたよ。<br>・「大切にしたい言葉」と自分の経験がつながっているか確認することが大事だよ。<br>・表現の工夫を使って自分の思いにぴったりの文になるように書きかえたいな。<br>・自分の一番伝えたいことが、伝わる文章になっているかな。  | ・卒業文集に残すという単元のゴールを確認する。<br>・推敲チェックリスト①を見返し、文章の構成や言葉と経験の関連等の既習を振り返る。<br>・本時に向けて、自分が伝えたい思いを再度確認する。   |
| 考える・深める30分   | 2. 全体で本時の学びのポイントを確認する。<br>○自分の思いがより伝わるようにどんな工夫をするといいかな。<br><div style="display: flex; justify-content: space-around; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> ①これからは、家族にも「ありがとう」を伝えたいと思います。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> ②これからは、伝えたい。家族にも「ありがとう」を。 </div> </div> ・1文を短くして、2文に分けたんだね。<br>・文の順番を工夫して「ありがとう」で終わるようにしているよ。<br>・②の方が、「ありがとう」を伝えたいという思いが強く伝わる感じがするよ。<br>・書き表し方を変えると、伝わり方が変わるね。<br><div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0; text-align: center;"> ③技が成功して、安心しました。 </div> ・わたしなら、「緊張がとけました」という表現を選ぶな。前日の練習では失敗して、技の前はすごく緊張していたから。<br>・ぼくは「ほっとしました」かな。成功する自信はあったけど、決まった瞬間の「よかったあ〜」は、「ほっとした」に近いな。<br>・気持ちを表す言葉を変えると、そのときの自分の気持ちがより伝わるようになるね。<br>・自分の伝えたいことがより伝わるように、ぴったりの表現を探したいな。 | ・前時の見取りを踏まえ、必要な一斉指導を行う。<br>・表現を工夫する前後を比較することで、その効果について全体で考えることができるようにする。<br>・表現を工夫することで自分の伝えたいことがより伝わるようになることに気付くことができるようにする。<br>・表現の工夫リストや言葉の宝箱、言葉の宝箱 plus を提示し、思考の手がかりとなることを伝える。<br>[①見方]<br>・モデル文（表現を工夫する前後）を比較することで、意図的に見方を働かせる場を設定する。<br>・対話をしながら本時の思考の見通しを持つことができるようにする。<br>[②対話]<br>・自分の文章を見直す視点を持つことができるようにする。 |

〈自分の思いがより伝わるように文章の書き表し方を工夫しよう〉

○この時間の自分の課題は何ですか。

- ・もっと自分の伝えたい思いがより伝わるように工夫したい。
- ・「あきらめずにがんばった」ことを一番伝えたいよ。どんな工夫をしたらいいか考えよう。
- ・どんな表現が自分の思いにぴったりか試してみよう。
- ・自分の思いが伝わるように書けているかな。友達に読んでもらおう。

3. 本時の課題に取り組む。《セレクト学習》

○自分の思いがより伝わるように、書き表し方を工夫して書きましよう。

・全体の課題に対する自分の課題を確認し、学習の見通しを持てるようにする。

・自分の伝えたい思いが書かれている部分にマーカーを引かせ、交流や見取りにいかす。

(情活)【思・判・表】B1③

・セレクトする内容

☞協働相手

学習状況シートで、使った表現の工夫、進捗状況、成果物を他者参照できるようにしておく。

[③見取り]

・学習状況シートを活用して学習の進捗状況を見取ることで、児童同士をつないだり、他者参照を効果的に促したりする。

★児童の課題解決のため、児童をつなぐ働きかけ、個別に支援が必要な児童への対応をする。



【表現の工夫に悩む児童】

- どんな表現の工夫ができるかな。
- ・自分の伝えたい気持ちが分かりやすく伝わっているかな。
  - ・その時のドキドキした感じを他の表現で表せないかな。
  - ・「たとえ」を使っている友達は、どのように使っているんだろう。友達の文章を読んで参考にしよう。

- ・学習状況シートで自分が取り入れた工夫や成果物が他者参照できるようにしておく。
- ・前時の終わりの学習状況から、支援が必要な児童にはすぐに個別に声掛けをする。



【他の表現の工夫を付け足す児童】

- 他にどんな工夫ができそうかな。
- ・印象に残った言葉から始めると、大切にしたい言葉がもっと伝わるようになりそうだな。
  - ・自分の気持ちを強調したいときは、「倒置」「体言止め」「反復」を使うとよさそうだ。
  - ・言葉の宝箱 plus で「うれしい」がもっと伝わる表現を探そう。

- ・支援の必要な児童と他の児童を繋ぐことで、対話しながらよりよく記述できるようにする。
- ・これまで学習した表現の工夫の一覧が端末で確認できるようリンクを貼ったり、手元ですぐに確認できるようにしたりする。



【友達と交流し文章を再検討する児童】

- 書いた文章は、自分の思いが伝わる書き表し方になっているかな。
- ・反復を入れて、自分の思いがもっと伝わるようにしてみたんだけど、これで伝わるかな。
- ・どちらの表現が自分の伝えたい思いと合うだろう。友達に聞いて伝わり方を確かめてみよう。
- ・友達の工夫が参考になった。表現の工夫リストを見返して、もう一度自分の文章を見直そう。

- ・分かりにくい点について児童間で助言できるよう、教師が対話を促す支援をする。
- ・表現の工夫リストをいつでも見返すことができるように紙媒体でも用意する。
- ・見直して書き直したところにマーカーを引かせることで変容を可視化する。

目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しくしたりするとともに事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。【思考・判断・表現：発言、ドキュメント】

振り返る10分

4. 本時の学びを共有する。

- 自分の思いがより伝わるようにどんな工夫ができましたか。
- ・「みんなが大きな声を出してくれました」から「みんなが体育館が揺れるほどの大きな声を出してくれました」にしたことで、どれだけ響く声だったかを表せたよ。
- ・「間違えたところを繰り返し練習しました」から「間違えたところを何度も何度も練習しました」に変えたことであきらめずに頑張ったことを伝えられたよ。

5. 本時の学習の振り返りをする。

- 今日の学びを書きましょう。
- ・体言止めを使ったことで、その時の臨場感をより伝えることができたよ。
- ・あきらめずに練習したことがより伝わるように書きかえることができたよ。
- ・友達と話すことで、自分の伝えたいことが伝わっているかかくなってきた。
- ・明日は、もっと自分の思いが伝わるような表現の工夫ができるか挑戦してみたいな。

- ・書くときに意識したこと（学び）を言語化して共有し、学びの価値づけを行う。
- ・セレクト学習を通しての自分の変容に気付くことができるようにする。
- ・本時のはじめに確認したことができている児童の良い文章を紹介する。

- ・振り返りを記入することで、各々が自分の学びを自覚化し、深い学びにつなげる。
- ・学習ステップシートでふりかえりを一覧にし共有する。

【資料のリンク】

[https://drive.google.com/drive/folders/1WPXGaXyDyPOIVhOs\\_7uNK6xRSZfkjMRV?usp=drive\\_link](https://drive.google.com/drive/folders/1WPXGaXyDyPOIVhOs_7uNK6xRSZfkjMRV?usp=drive_link)